



小野 恵章 議員

- 1、NHK放送受信料を助成すべき
- 2、JR矢本駅の改修計画を策定すべき



▲あなたにもコウノトリがやって来ます！

- 1、不妊治療、不育症治療への充実した支援を求める
- 2、介護ボランティアポイント制度について



手代木せつ子 議員

### Q 特定不妊治療給付事業の成果は

#### A 母子手帳を15件発行済み

**Q** ①本市は、宮城県内でも不妊治療費助成額はトッププランナーである。  
平成28年度より特定不妊治療給付事業を実施しているが、その成果と、さらに上乗せすることは検討できないか。

**A** 市長 ①平成28年度からの助成開始以降、現在まで申請した夫婦は30組、申請件数は延べ58件。  
このうち48%が妊娠し、出産は9組9人。  
今後6組の出産が予定

されている。

現在、健康保険適用外の特定不妊治療には、1回15万円を上限に助成しているが（治療費から宮城県による助成額を除いた額のうち15万円に満たない場合はその額を）、県内の各自治体の支援内容と比較しても治療しやすい制度設計であるため、平成30年度まで上乗せは

せず現行制度を継続する。不妊治療は経済的負担が大きく、デリケートな問題だけに、3年間の成果、検証を踏まえ、何が求められているのかアンケートを取り、ニーズの把握に努め、平成31年度以降を検討していく。  
②不育症は病気であり、治療には健康保険が適用されるため、患者の皆様には諦めることなく治療継続を市報等で啓発する。

### Q JR矢本駅改修計画を策定すべき

#### A 引き続き検討してゆく

**Q** ①計画策定が急がれるJR矢本駅

について、平成29年度第2回定例会答弁では第2次総合計画での検討を基本に、復興の現状を踏まえ計画の策定の明言は、避けるとの回答であった。しかし、本市の顔であるJR矢本駅整備の必要性は、誰もが認めることであり、重要課題と捉え計

画策定すべきと考えるが所見を問う。

②昨年12月に東北防衛局よりNHK放送受信料助成対象者に、段階的に終了する旨の通知があった。本市の航空機騒音問題はブルーインパルスが市街地上空を飛行する等、他の基地とは異質であり、茨城県小美玉市が市独自の助成制度を行っている

事例もあり検討すべき。

**A** 市長 ①矢本駅舎の老朽化について

は、JR東日本との連携が必要、JR東日本仙台支社では単独での駅舎改修は難しいと伺っている。矢本駅の南北通路の整備を行う場合には、併せて駅舎の改修を行う可能性はあるが、利用状況から難しい。矢本駅について

はJR利用者の利便性確保と、街の顔としての拠点と認識しており市民が利用しやすく、生活しやすい環境を整えていくことが大事と考えている。課題はあるが、市内JR駅乗降客数調査結果等も参考に、補助事業等の助成支援等の把握も含め引き続き検討していく。

②財政状況から難しい。基地の安定使用には、周辺住民の理解が重要で本市の特殊性を国に訴え、助成継続を要望していく。



▲本市の玄関口として早期の改修計画が待ち望まれる